

国際水協会・

アジア太平洋地域会(IWA-Aspire)

ニュージーランドで開催

吉村 和就
よしむら かずなり
グローバルウォータージャパン代表
日本水フオーラム理事
日本水安全保険戦略機構技術普及委員長



第10回IWA-ASPIRE会議は、2025年9月29日から10月3日までニュージーランドのクライストチャーチで開催され、50カ国から約4千人の水に関する専門家が集結した。IWA・統合イベントの包括的なテーマは「明日に力を与える・レジリエントなコミュニティのためのスマート・ウォーター・ソリューション」として、ニュージーランドの国内組織Water New Zealandと共催して行われた。

1. 提案された重点分野

メインテーマの「明日に力を与える」は強靭なコミュニティのためのスマート・ウォーター・ソリューションであり国際水協会(IWA)は、通常通りのビジネス・スタイルからの革新的な脱却として、IWA-ASPIRE 2025と毎年恒例のウォーター・ニュージーランド・カンファレンス・アンド・エキスポを組み合わせたイベントを開催した。これは、共通のテーマをめぐって、国際的な水と衛生の専門家や実務家、ニュージーランドのWASH(Water, Sanitation and Hygiene)専門家、科学者、専門家のための会議のプラットフォームを提供し、さらに先住民(マオリ民族)の知識と水アプローチとして水環境の持続可能性に焦点を当てて行われた。

- 明日に力を与える

- ・統治ユーティリティ管理と実現環境
- ・スマート・ウォーター・ソリューション
- ・水リスクとレジリエンス
- ・コミュニティと水資源

2. 会議の成果と注目点

マオリ族は全国民人口（530万人）の約17%で、英國による植民地化以前からの先住民族であり、彼らの水環境への持続可能性アプローチが紹介された。（汚水の土壤処理、水源の涵養方法など）

- ・科学的成果の発表では、水質に関する微生物検査、DNAによる微生物の識別方法など最新の研究成果が共有された。

- ・基調講演では、コペンハーゲン大学のキャサリン・リチャードソン博士の「ONE WATER, ONE PLANET, ONE FUTURE」に対するパネラー討議が大きな注目を集めていた。

日本から会議発表者とエキスパート展示企業関係者ら、約100名が参加し、各國の専門家と意見交換をおこなった。日本チームとして、日本水道協会、札幌市水道局、東京都水道局、名古屋水道局、大阪市水道局、水道技術研究センター、日本下水道新技術機構、北里大学、東北大学、京都大学、東洋大学、秋田高専、企業ブースでは、コスマ工機、大成機工、栗本鉄工所、横河ソリューションサービス、日本ニューロンの専門家がアジア各国の専門家に日本の技術やノウハウを精力的に解説し日本のプレゼンス高揚に努めた。

3. マリオン・ザヴィル大会議長へ単独インタビュー

筆者は、長年懇意にしているウオーターニュージーランド会議＆エキスパート共同議長であるマリオン・サヴィル議長と単独インタビューを行い、ニュージーランドの水環境と課題について意見交換をおこなつた。



写真 マリオン議長と

①家畜による水質汚染問題

ニュージーランドでは酪農・畜産が主要な産業であり、放牧型農業が国土に広く展開されている。この産業は外貨収入の約6割を占めるために、酪農地域の拡大や乳業飼育密度の上昇が進む中で、家畜排せつ物や尿（羊は約600万頭、牛は約1000万頭、それぞれ国内人口の5倍と2倍）、さらに牧草地への施肥による窒素・リンの流出リスクが増大している。水域（河川水、地下水など）では硝酸性アンモニア、リン酸塩、大腸菌、最近では腹痛

や下痢を引き起こすカンピロバクター やクリプトスパリジウムも検出されている。

2003年には「酪農・清流協定」が制定され、酪農業界、地方自治体も合意していたが、さらに「水政策2020年」を制定し、水質の監視・モニタリングを強化している。

しかし、政権交代により水行政に大きな変化がもたらされている。過去の取り組み（旧労働党政権）ではスリー・ウォーター改革として、地方自治体が管理していた上水・下水・雨水のインフラ更新を大規模な地域事業体へ統合する計画が勧められ、「水の精神・水路の健康、安全な飲料水へのアクセス」を展開していたが、現政権（国民党を中心とする連立政権）は旧政権の政策を大きく転換し、再び「個別の地方自治体が水インフラの所有・管理権を掌握する」方向に転換したため、減速した経済環境の中、財源難さらに民間と連携したインフラ改築更新も停滞している。

② クライストチャーチ市（居住人口約40万人）の水道料金・月額は無料

各家庭に水道メーターは付いているが、基本的に月額無料で、使いすぎたら警告がくる仕組み。では上下水道料金はどうなっているのか？それは固定

資産税の中に含まれ（いわば英國方式）、毎年徴収（邸宅の大きさによるが、年間約70ドル）されている。では①のような水質汚染の問題はないのか、と質問したら、「今のところ深井戸（200メートル前後）から取水しているので水質の問題はない」と。また水道水に塩素注入を行っていない唯一の都市で知られていたが、2010年大地震の水道被害の後、塩素注入の問題が提起され、大論争が起きたので、数年前から塩素注入を始めている。しかし、未だに塩素注入反対運動も続いている。また下水道料金も固定資産税の中に含まれ、面積比なので大邸宅程、下水道料金負担が増加する仕組みである。

さいごに

ご承知のとおりニュージーランドは日本と同様、南北に細長い火山国で、温泉や地震が多い国である。国土面積は日本の3／4（27万平方キロ）で、大きく異なるのは人口で、約530万人が、北島に75%、南島に25%居住している。今回の会場となつた南島のクライストチャーチは「ガーデンシティ（庭園都市）」を称され英國の邸宅を思わせる伝統的な建築物が多く見られ、治安も良いので、ぜひ観光でも訪れて欲しい都市であつた。